

## New Horizon 第7回 Lessons

### Lesson 7-1: 肯定の命令文

命令文とは「書きなさい」「使いなさい」といった、「～しなさい」といった文です。しかし、**言い方によって『強制』だけでなく『提案』のニュアンスも含めることができます**（料理のレシピは、基本的に命令文が使われます）。また、命令文では「一般動詞」と「be 動詞」で文の形が異なります。

#### 【肯定の命令文（一般動詞編）】

一般動詞の命令文では **主語がなく、動詞の原形（辞書で調べる形）から始まります。**

#### 【肯定の命令文（一般動詞編）：基本の形】

一般動詞の原形 + ～.

(～を「一般動詞」しなさい) (～を「一般動詞」して)

<例> Write your name here. (ここにあなたの名前を書きなさい)

Eat your toast. (あなたのトーストを食べて)

#### 【作り方】

ステップ1: You を主語にした**肯定文**を作る。

ステップ2: 主語の **You** を取る。

<例: ここにあなたの名前を書きなさい>

ステップ1: **You** を主語にして肯定文を作る。「(あなたは) ここにあなたの名前を書きます」

You write your name here.

ステップ2: 主語の **You** を取る。

Write your name here.

#### 【ポイント】

##### 1. “Please 命令文” や “命令文, please” で、丁寧なお願いに

命令文の最初に Please を足すか、命令文の最後にカンマと please を足すことで「～してください」といった丁寧なお願いにすることができます。

<例> Please write your name here. (ここにあなたの名前を書いてください)

## 2. **and** を使って2つの命令文をつなげることも可能

and を使うことによって、2つの命令文をつなげることができます。

<例> Go home **and** do your homework. (家に帰って宿題をして)

## 3. 自己紹介の際に使われる **Call me** ○○. (私を○○と呼んで) は命令文

自己紹介の際によく登場する Call me ○○. (私を○○と呼んでください) というのは、命令文です。そのため、Please call me ○○. や Call me ○○, please. という表現もよく使われます。

### 【肯定の命令文 (be 動詞編)】

be 動詞の命令文の場合は、**主語がないのは同じですが、Be から始めます**。Be は、am / are / is といった be 動詞の原形と呼ばれるものです。また、be 動詞の命令文でも Please を足すことができます。

#### 【肯定の命令文 (be 動詞編) : 基本の形】

**Be + ~.**

(~でいなさい) (~でいて)

<例> **Be** quiet. (静かにして)

**Be** a good student. (良い生徒でいて)

#### 【作り方】

ステップ1: You を主語にした**肯定文**を作る。

ステップ2: 主語の **You** を取り、**be 動詞**を **be** にする。

<例: 静かにして>

ステップ1: **You** を主語にして肯定文を作る。 「(あなたは) 静かです」

    **You** are quiet.

ステップ2: 主語の **You** を取り、**be 動詞**を **be** にする。

    **Be** quiet.

### Lesson 7-2: 否定の命令文 (一般動詞編)

否定の命令文とは「これを食べないで」「緊張しないで」などと言いたい時に使います。否定の疑問文の作り方は簡単。なぜなら、一般動詞、be 動詞の文に関係なく **肯定の命令文の前に don't (あるいは do not) を足せば完成** だからです (基本的に don't の方が do not より使われます)。

【否定の命令文：基本の形】

Don't (Do not) + 一般動詞の原形 + ~.

Don't (Do not) + be + ~.

(~しないで) (~でないで)

<例> Don't (Do not) use my computer. (私のパソコンを使わないで)

Don't (Do not) be a bad student. (悪い生徒でないで)

【作り方】

ステップ1: 肯定の命令文を作る。

ステップ2: 文の先頭に Don't/Do not を足す。

<例1: 私のパソコンを使わないで>

ステップ1: 肯定の命令文を作る。 「私のパソコンを使って」

Use my computer.

ステップ2: 文の先頭に Don't/Do not を足す。

Don't (Do not) use my computer.

<例2: 悪い生徒でないで>

ステップ1: 肯定の命令文を作る。 「悪い生徒でいて」

Be a bad student.

ステップ2: 文の先頭に Don't/Do not を足す。

Don't (Do not) be a bad student.

【ポイント】

否定の命令文でも使える Please

否定の命令文でも、please を足すことで「~しないでください」といった丁寧な命令文にすることができます。

<例> Please don't use my computer. (私のパソコンを使わないでください)

### Lesson 7-3: 動詞を説明する副詞

ここで学ぶのは、hard（熱心に）のように「一般動詞（+目的語）」の後に足され動詞を説明する際に使われる副詞です。副詞によっては very といった「副詞の意味を強調する副詞」を足すことができます（これは副詞が副詞を説明する形となります）。

#### 【動詞を説明する副詞の足し方：基本の形】

一般動詞（+目的語） + (very) 副詞

<動詞を説明する副詞>

副詞	意味	例文
well	上手に	She can play the piano well. (彼女は上手にピアノを弾けます)
right	右に	Turn right there. (あそこで右に曲がって)
left	左に	Turn left here. (ここで左に曲がって)
straight	まっすぐに	Don't go straight here. (ここをまっすぐに行かないで)
fast	速く (一定して継続的に速い)	You can run very fast. (あなたはとても速く走れます)
*quickly	すばやく / 速く (瞬間的に速い)	Eat this quickly. (これを速く食べて)

\*quickly のように「形容詞 + ly (quick + ly)」で副詞になる形も多い。beautifully など。

### Lesson 7-4: 様々なフレーズ③

#### 1. Excuse me = (話しかける時などに使う) すみません / 失礼します

<例> Excuse me. Can I sit there? <すみません、そこに座ってもいいですか>

#### 〔補足説明〕

一般的に sorry と excuse me の違いは、sorry は「自分の非を認めて申し訳なく思っている“すみません”（例：遅刻をした、大きなミスをした、など）」なのに対し、excuse me は「あまり謝罪の意図が含まれない“すみません”（例：人にぶつかりそうになった時、誰かの話を遮る時、など）」となる。

2. at the (○○) corner = (○○の) 角で / 角を \*○○には、next / second / third などが入る。

<例> Turn right at the corner. <角を右に曲がって>

Turn left at the second corner. <2番目の角を左に曲がって>

3. on your right (left) = あなたの右 (左) に

<例> You can see the library on your left. <あなたの左に図書館が (あなたには) 見えるでしょう>

[補足説明]

on your right (left) だけでなく、on my right / left (私の右側・左側) といった表現や、on my right side / left side と right side (右側) / left side (左側) ということも可能。

4. Don't worry. = 気にしないで / 心配しないで

<例> A: I don't have my computer. I'm sorry. B: Don't worry.

<A: 私は私のパソコンを持っていません。ごめんなさい。 B: 心配しないで>

[補足説明]

worry が「気にする」「心配する」という一般動詞。